

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100209		
法人名	株式会社 さくらコミュニティサービス		
事業所名	満快のふる郷 さくら千歳 1F		
所在地	千歳市勇舞1丁目7番15号		
自己評価作成日	平成29年10月17日	評価結果市町村受理日	平成29年11月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0171100209-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成29年10月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>満快のふる郷さくら千歳では、ホームの理念「六つの誓い」とホームのビジョン「新3K(感謝・感動・架け橋)を実感できる職場」を掲げ日々入居者様の支援に取り組んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人生の大先輩に対して、尊敬と敬意を払い、生きていくお手伝いを心からさせていただきませす。 2. 一人ひとりの主体性を尊重し、真剣に向き合ったケアを行います。 3. 一瞬一瞬が、その方にとってかけがえのない人生であるから、今この時を大切にします。 4. 残された力を見出し、真の喜びと自信が持てる生活の実現を目指します。 5. 自由にその方らしく過ごしていただくために、言葉や行動による抑制は一切いたしません。 6. 地域の一員として、積極的に地域と交流し、理解を深めていただくための架け橋となります。 <p>「新3K」感謝 毎日の暮らしの中で、お互いが相手を思いやり支え合う『心からのありがとう』感動 共に生活し、いくつもの季節を過ごす中で、新たな発見や感動、喜びを『一緒に感じる』架け橋 今までの人生で大切にしている人達、これからの人生で出会う人達『人と人、思いと想いを繋ぐ架け橋』</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「満快のふる郷さくら千歳」は、平成16年1月に緑豊かで住みよい街として整備が進む勇舞地区に設立されました。保育園、小学校、中学校、高校に囲まれた閑静な地域です。運営会社は「高齢者生活支援」「介護人材の養成」「就業サポート」の3事業を柱に、外国人技能実習制度を先駆的に推進しており、ミャンマーの実習生受け入れを予定しています。今春着任した管理者は、慢性化している職員の欠員状態を解決すべく、自治体や千歳市の介護・福祉サービス事業者の団体である「絆の会」へ働きかけています。事業所内では1日の日課・目標を毎朝掲示して職員の動きを明確にし、利用者のサービスの質向上に努め、新設した環境改善委員との連携しソフトとハード両面での業務改善を迅速に進めています。また、利用者が個々の能力に応じて、自己選択・自己決定を行う力を持てるよう支援したり、それを維持することで自らの生活を主体的なものとするようしています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に「六つの誓い」を唱和し、職員は常に入居者様の支援に「六つの誓い」を取り入れ支援している。また、新3K(感謝・感動・架け橋)実感できる職場を目指し、毎日の目標を上げ実践に取り組んでいる。	管理者は法人理念の「六つの誓い」を職員とともに毎朝唱和し、職員の意識づけを図っています。職員は年初にケア目標を掲示しサービスの実践に繋げています。		
2	2	千歳市勇舞1丁目7番15号 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事や市民の催し、北陽小学校ボランティア活動及び学校行事の参加など地域との交流を行っています。	近隣中学のバリアフリー授業の見学を受け入れています。また、ボランティアと一緒に学校行事へ参加したり、近隣住民を招いた周年行事で交流を深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高校や小学校のボランティア活動の場としてホームを提供し、認知症についての情報を提供したり、入居者様と触れ合ってもらって頂く事で、認知症に関心を持つきっかけとなっています。今後も取り組みを継続していきます。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月ごとに運営推進会議を開催し、ユニットの状況報告、情報公表、意見交換を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしています。また御家族や入居者様も参加し意見を述べて頂き、出た意見はホームで検討しサービス向上に努めています。	地域包括センター職員・町内会・職員・家族が参加し、年6回開催しています。会議では行事報告・連絡のほか、事業所の課題点への意見や要望について検討し改善に結びつけています。	地域からの参加は、町内会長・民生委員に留まっており、より幅広い意見を求めるためには、近隣住民・ボランティアなどの参加が望まれます。議事録は事業所内で閲覧可能ですが、今後は家族に配付するなど周知や参加を促す取り組みを期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やボランティア活動の協力等、地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員の方と連絡を取り合い協力関係を築くよう取り組んでいます。	生活保護課の訪問のほか、諸手続きなどの機会に関係を築いています。運営推進会議には地域包括支援センター職員の出席があり、職員採用についての情報提供など連携を図っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念に添い、拘束をしないケアを行っています。都度ユニットで入居者様の状態に合わせた適切なケアが実践出来るよう話し合い、ケアの統一を目指しています。	身体拘束の禁止を理念に掲げ、毎月の勉強会を通じ職員の理解を深めています。言葉かけ一つ一つを職員間で確認し合い、拘束のないケアを実践しています。玄関は夜間のみ施錠し、日中はチャイムで利用者の見守りを行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し、内容は職員全体に回覧し情報の共有をし虐待防止に努めている。また小さな気付きも報告しあっている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内容を少しでも理解して貰う為に、勉強会を開催し説明や補足を行い適時に伝達しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際に詳しく説明を行い不安や疑問に関する理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、御家族様の意見、要望についてはご意見箱の設置や、公的窓口を利用し反映されたり、来訪時に御家族様より意見・要望を頂いた時は、職員全員で情報を共有し、改善事項や対策については周知し、運営に反映出来るよう努めています。	意見箱を設置し家族の来訪時に個人記録を提示し意見等を受けています。家族からの要望が多い利用者の力を活かした支援ができる体制と仕組み作りに事業所全体で取り組んでいます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム責任者より個人面談や、各ユニット会議・全体会議で提案を提案する場を設け、意見の交換を行い反映している。	管理者は、月に一度の職員会議の場や個人面談で職員の意見を聴取しています。今年4月に環境改善委員として3名を任命し、職員の要望を迅速に解決する体制を構築しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度で個々に目標を設定し、管理者との面談の場を設けて意見交換を行い各自が向上心をもって働けるよう職場環境・条件の向上に向け取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に基づいて、目標に向け上司や職員で共有し取り組んでいます。社内の研修や講習は参加していますが、外部の研修は参加が少なく感じられます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「絆の会」を通じて他事業所との「合同運動会」や研修・講習に参加しサービス向上に努めています。それにより交流も深まっていますが、今年度は参加出来ない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際には、相手先に足を運び細かな情報収集を行っている。面会を重ねることで本人の思いを傾聴し、関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様お話を一つ一つ丁寧に伺い、現状や要望を捉え、一緒に最善策について話し合っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一つ一つ細かな情報収集を行い、ニーズを見極めながら職員全員で入居検討をしています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や買い物、作業を行いながら、入居者様が職員と共に生活しているという実感を持って頂ける様、努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から積極的にご家族様とコミュニケーションを取るよう心がけています。関係作りを密にし、連絡を取り合うことで入居者様と架け橋となり、協力して頂ける方に、行事参加をして頂ける様、働き掛けています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み方や場所をご家族様やご本人様からお聞きし、定期的にお連れしています	知人・友人が少なくなった利用者が多い中で、馴染みの店や帰宅を希望する利用者には職員が同行し、利用者が満足するまで心身ともに寄り添うようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士が過ごせる環境作りをホーム、ユニット内で行なっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去された方へは、お見舞いに伺い、その後の受け入れ先等の相談を行っています。また、年賀状を出したり、足を運んで頂ける様ホームの行事にお誘いする等、関係の継続に努めています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画作成の際や、都度本人の意向を伺っている。困難な場合は、その方の状態やご家族と相談し意向に反映している	日々の会話の中から把握した本人の意向や希望は、家族からの情報も含めてケア記録に記載し、職員間で共有してアセスメントしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを基にこれまでの暮らしの把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式で得た情報を基に、生活歴や性格、現在様子・状態、能力など入居者様要望を把握する様努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に入居者様やご家族様とコミュニケーション、パートナー間情報交換を行い、課題と方策を会議で検討し、思いを叶えるため支援を介護計画として立案しています。	サービス実施確認表で、実践状況を毎日確認できるよう介護計画と一緒に綴り、モニタリングの資料としています。利用者や家族の意向も事前に把握し手順に沿って介護計画を立案しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や介護計画評価表を用いて実践できているか確認を行い見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医や看護師による健康管理やホーム内で出来る簡単なリハビリ支援、外出等入居者様思いを叶えるため支援を行っています			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族をイベントへお誘いし、参加して頂いており、避難訓練も民生委員や町内方と一緒にこなっています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医による往診、24時間相談、看護師による健康管理等医療連携体制が整っています。以前から継続している病院ある方、そちらに受診し主治医に報告しています。	訪問医療・訪問看護と連携しています。また精神科や整形外科など利用者の希望するかかりつけ医への受診は職員が同行し、主治医や薬剤師から得た情報を記録し、職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、又は訪問看護師にアドバイスを貰い入居者様の状態に合わせ、受診や看護を受けることができるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院関係者と情報交換や主治医から病状説明に同席し、情報収集を行う中で関係構築を図っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応方針を示し、現時点でのご家族の意向を確認しており、入居者様やご家族の意向を共有しチームケアを行っている	「終末期の対応指針」は契約時に家族へ説明し同意を得ています。また、状況変化の際には意向を再確認しています。終末期のケアは、医療機関と連携を取り、職員の研修を重ねています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命・救急に関する対応を会議等で学ぶ機会を設け、全職員が対応できるよう、緊急救急・防災マニュアルを設置し備えている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っており、地域の方や、ご家族に参加を呼びかけ、訓練の協力や、改善に向けての意見交換などの取り組みを行っている。	年2回の避難訓練は、行政や町内会・家族も参加し、訓練後は課題改善に向けた意見交換をしています。非常食は3日分を確保し、寒さ対策については今後の検討課題としています。	災害時には、近隣住民の協力が不可欠です。避難訓練実施時には町内回覧版やポスティングなどで、一人でも多くの参加を呼び掛ける必要があります。また、事業所の指定避難所・広域避難所は、事前に家族へ周知することを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様のプライバシーや羞恥心に配慮した声掛けを行い、言葉遣いや、マナーに注意して対応を行っている。	利用者への「尊敬と敬意」を理念に定め、職員は毎朝唱和しケアの実践に活かしています。利用者の個人情報には施錠できる書庫で保管しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた方法で接し、常に入居者様希望に添えるよう心がけています。添えない場合謝罪した上で納得行く別対策を検討しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様ペースに合わせて極力希望に添える様に支援し、週間予定に組み込む等、時間確保を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時に好みに合わせた衣類や、身の回り品の購入への支援や、日常生活の中で身だしなみやおしゃれを意識できるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に盛り付けや、味見をして頂いたり、食事中も会話をしながら楽しんで頂けるよう配慮されている。	庭での野菜作りを通して季節感を取り入れています。利用者が盛り付けや配膳に力を発揮したり、会話を楽しみながら食事ができる環境作りに取り組んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを調整しており、塩分の調整や、一人ひとりに合わせた食事量を提供している。水分もゼリーなどの提供も合わせ摂取量を確保している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとり状態に合わせて対応し、毎食後口腔ケアと義歯洗浄を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンをある程度把握した上で、一人ひとりに合わせた排泄支援を行っています。状況に応じて適時トイレへご案内する事で、排泄失敗を減らすよう努力をしています。	排泄チェック表を活用して利用者個々の介護計画に沿った支援をしています。おむつやパッドは人目に付かないよう居室に保管し、プライバシーに配慮した誘導・支援に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維多い物を提供するよう心がけ、牛乳やヨーグルト、青汁などを毎日提供しています。体操や腹部マッサージなどを行ない下剤調整を都度、看護師と相談しながら行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自ら入浴希望を訴える方少ない為、入浴声掛け職員より行っていますが、曜日や時間取り決めなく、入居者様状態に合わせています。拒否が強い方に時間をずらしたりと、一人ひとり状況に合わせて配慮をしています。	積極的に入浴を希望する利用者が少なく体調に配慮しながら週2回以上を目標に支援しています。拒否が強い場合には時間をずらしたり清拭で対応しています。異性介助は、本人と家族の同意を得て行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況に合わせて臥床や、ソファなどで休息して頂ける様支援している。居室の明るさや、物音に配慮し、入居者様の思いを傾聴する等、利用者が落ち着いて安眠できるよう配慮している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬目的や副作用等記録や申し送りノート活用により全職員に周知されています。又、薬局から薬剤情報書をファイルし、すぐに確認出来る様ファイル常にキッチンに置かれています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様出来る事や好きな事を把握し、役割ある暮らし、自立へ支援や楽しみ促しに努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩や日光浴を行い一人ひとりに合った好きな食べ物や場所を伺い外出支援を行っている。	花見・花火・紅葉ドライブなど季節ごとに計画を立て外出しているほか、利用者一人ひとりの希望や状況に応じて外出しています。天候の良い日には、庭やペランダで日光浴を行って近隣との交流も行っていきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ち金を持たれている方に、週1回手持ち金を一緒に確認をさせて頂き、外出支援時に買い物有無に関わらず所持促しや買物が出来る環境作りにも努めています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望時に電話をして頂ける様支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽が入り明るく広いリビングに季節を感じて頂ける様にクリスマスツリーや雛人形などを飾り、楽しみ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	玄関ホールは寄贈された民芸家具や図書が設置され、来客や利用者の憩いの場となっています。二階ホールは民芸品と木製ベンチで懐かしい雰囲気です。日当たりの良い広い居間には手作りの日めくりカレンダーや季節行事の飾りつけを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大勢で座れる団樂の場や、独立したソファやテーブルもあり、思い思いの場所で過ごせる工夫がしてある。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、長年慣れ親しんだ家具や、ご家族様の写真を飾られたり、入居者が居心地良く過ごせるよう工夫指定している。	利用者それぞれが馴染みの家具や仏壇などを持ち込み、家族の写真を飾っています。衛生面・安全面でも心地よい空間が維持できるよう、職員が利用者へ声をかけて一緒に清掃するなど支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすや歩行器を使用して移動もできる様、十分なスペースが確保されています。手摺りもほぼ全域に設置されており、つたい歩きが出来る様配慮されています。			